

# 事業報告書

(平成26年度)

学校法人 智香寺学園

# 目 次

## 1. 法人の概要

(1) 設置している学校・学部・学科等	1
(2) 各学校・学部・学科等の入学者数・在籍者数の状況	1
(3) 役員・教職員概要	2
① 役員	
② 教員	
③ 職員	

## 2. 事業の概要

(1) 平成26年度事業の概要・実施状況	3
大学部門	
① ものづくり研究センター	
② 電気自動車プロジェクト（「次世代電気自動車研究開発プロジェクト」）	
③ がんばる！学生プロジェクトの推進	
④ 研究計画の進捗状況	
⑤ 科学研究費・その他の助成事業	
⑥ 地域交流計画の実施状況	
⑦ 主な施設設備計画の実施状況	
⑧ 就職事業状況	
高校部門	14
① 平成26年度卒業生進路実績	
② 平成26年度入学者実績	
③ 転入学者、転退学者数	
④ 耐震補強工事	
⑤ 平成26年度の事業計画に記載した事項	
⑥ 財務基盤の改善・強化	

## 3. 財務の状況

(1) 概況	17
(2) 連続消費収支の状況	17
(3) 資産負債の状況	18
(4) 連続貸借対照表の状況	18

1. 法人の概要

(1) 設置している学校・学部・学科等

(平成26年5月1日現在)

学校名	学部・学科・課程名	開設年度	入学定員 募集定員	編入学定員	収容定員 学則定員
埼玉工業大学	大学院工学研究科 (博士前期課程)				
	システム工学専攻	平成10年4月	6		12
	電子工学専攻	平成19年4月	7		14
	応用化学専攻	平成19年4月	7		14
	(博士後期課程)				
	システム工学専攻	平成12年4月	2		6
	物質科学工学専攻	平成12年4月	0		0
	電子工学専攻	平成22年4月	2		6
	応用化学専攻	平成22年4月	2		6
	大学院人間社会研究科 (修士課程)				
	情報社会学専攻	平成18年4月	10		20
	心理学専攻	平成18年4月	15		30
	大学院小計		51		108
	工学部				
	機械工学科	昭和51年4月	110		440
応用化学科	昭和51年4月	0		0	
電子工学科	昭和51年4月	0		0	
情報工学科	平成14年4月	0		0	
生命環境化学科	平成19年4月	100		360	
情報システム学科	平成19年4月	130		500	
ヒューマン・ロボット学科	平成19年4月	0		0	
工学部小計		340		1,300	
人間社会学部					
情報社会学科	平成14年4月	100		420	
心理学科	平成14年4月	60		280	
人間社会学部小計		160		700	
大学合計		551		2,108	
正智深谷高等学校 全日制課程 普通科	昭和32年4月	400		1,200	
高校合計		400		1,200	
法人合計		951		3,308	

(2) 各学校・学部・学科等の入学者数・在籍者数の状況

(平成26年5月1日現在)

学校名	学部・学科・課程名	入学定員 募集定員	入学者数	編入学者数	在籍者数
埼玉工業大学	大学院工学研究科 (博士前期課程)				
	システム工学専攻	6	9		12
	電子工学専攻	7	6		12
	応用化学専攻	7	7		16
	(博士後期課程)				
	システム工学専攻	2	3		3
	物質科学工学専攻	—	—		—
	電子工学専攻	2	2		6
	応用化学専攻	2	1		8
	大学院人間社会研究科 (修士課程)				
	情報社会学専攻	10	2		8
	心理学専攻	15	6		13
	大学院小計	51	36		78
	工学部				
	機械工学科	110	121		458
応用化学科	—	—		—	
電子工学科	—	—		—	
情報工学科	—	—		—	
生命環境化学科	100	138		529	
情報システム学科	130	177		657	
ヒューマン・ロボット学科	0	0		6	
工学部小計	340	436		1,650	
人間社会学部					
情報社会学科	100	90		384	
心理学科	60	50		231	
人間社会学部小計	160	140		615	
大学合計	551	612		2,343	
正智深谷高等学校 全日制課程 普通科	400	348		1,079	
高校合計	400	348		1,079	
法人合計	951	960		3,422	

## (3) 役員・教職員概要

## ① 役員

(平成26年5月1日現在)

理事・監事 の区別	職名又は担当職務	氏名	就任年月日
理事 (常勤)	学長	内山 俊一	平成23年4月
理事 (非常勤)	財務担当	宇都宮 孝和	平成19年4月
理事 (常勤)	理事長	松川 聖業	平成11年5月
理事 (非常勤)		松川 文豪	昭和42年5月
理事 (非常勤)	教育研究担当	佐藤 良純	昭和52年7月
理事 (常勤)	学校長	渡辺 達治	平成23年4月
理事 (非常勤)		神居 文彰	平成19年4月
理事 (非常勤)	財務担当	三輪 行雄	平成19年4月
理事 (非常勤)		馬岡 清人	平成23年4月
理事 (非常勤)		緒方 延泰	平成19年7月
理事 (非常勤)		宇高 良哲	平成22年7月
監事 (非常勤)		川田 博美	平成12年12月
監事 (非常勤)		今岡 達雄	平成19年7月
監事 (非常勤)		新谷 仁海	平成19年7月

## ② 教員

( )内は兼担を示す

部 門	専任教員	兼務教員	合 計
大学院	(55)		(55)
先端科学研究所	1(18)		1(18)
工学部	48	94	142
人間社会学部	24	50	74
大学計	73	138	211
正智深谷高校	57	35	92

## ③ 職員

部 門	専任職員	兼務職員	合 計
法人部門	4		4
大学部門	59		59
高校部門	10		10
合 計	73		73

## 2. 事業の概要

### (1) 平成 26 年度事業の概要・実施状況

大学部門

- ① 平成 28 年度完成を目指し、埼玉工業大学「ものづくり研究センター」の概算設計に着手。なお、昨年度計画していた図書館のリニューアル工事は、当面先送りする事とした。
- ② 平成 26 年次世代自動車向けの革新的なものづくり拠点として「ものづくり研究センター」の計画及び「電気自動車プロジェクト」（「次世代電気自動車研究開発プロジェクト」）を始動させた。工学部だけでなく、文系の教員も含めた全学科横断的な研究体制のもと、「電池・制御・IT 技術」の 3 つのチームが力を合わせることで、埼玉大ならではの独自の技術開発を目指す。



■次世代電気自動車研究開発プロジェクト 第 1 号車  
(2015 年 3 月 車検取得) 完成



■学内に設置されたEV QUICK CHARGER  
(電気自動車用急速充電器)

### ③ がんばる！学生プロジェクトの推進

目的：学生の自主性・創造性の向上と、学生相互の交流の活性化

〈平成 26 年度は以下のプロジェクトが様々な活動を行いました。〉

- (1) フォーミュラプロジェクト
- (2) SAIKO Aquarium Project
- (3) 集まれ科学実験教室プロジェクト
- (4) 米と日本酒（米作り、そして日本酒へ）プロジェクト
- (5) OKABE 光の回廊プロジェクト
- (6) 自然環境保護プロジェクト
- (7) SAIKO EV Project
- (8) ロボコンチャレンジプロジェクト
- (9) SAIKO advertorial project

## 【主な活動報告】

### \*SAIKO Aquarium Project

名古屋東山動物園にて研修実施。園内のメダカ館においてメダカ研究の最前線に触れメダカの生態系について知識を深めた。今後も東山動物園との交流は続けていく予定

### \*集まる科学実験教室プロジェクト

平成 26 年度も深谷市内をはじめ、様々な地域において子どもを対象とした科学実験教室を実施。大勢の子ども達に理科の楽しさを伝えました。

### \*米と日本酒（米作り、そして日本酒へ）プロジェクト

平成 26 年度も地元農家と、丸山酒造株式会社の協力のもと、3 回目となる本学オリジナル日本酒「3 代目 瞬喜道」づくりを実施

6 月・・・深谷市矢島で農業を営む高橋さんと協同で田植えを実施

10 月・・・稲を収穫

2 月・・・丸山酒造株式会社での酒造り合宿を実施

また、昨年完成した「2 代目 瞬喜道」を百貨店において店頭販売実施。製造から販売までを経験

#### 【販売実績】

6 月・・・(株) そごう・西武 西武池袋本店 / (株) そごう・西武 そごう大宮店

10 月・・・(株) そごう・西武 そごう大宮店

### \*OKABE 光の回廊プロジェクト

・ふかや市商工会青年部と、JR 高崎線 岡部駅南側に位置する「岡部希望が岡公園」に冬季イルミネーションを設置するための、設置作業、オブジェの製作、公園清掃作業等を協働で行うことを目的とした協定の調印式を実施

・岡部希望が岡公園で「第 5 回イルミネーション」点灯式

・大学構内で「埼玉工業大学イルミネーション 2014」点灯式

### \*ロボコンチャレンジプロジェクト

複数のロボコン大会に出場（大会名は以下のとおり）

8 月「まえばしロボコン」、「かわさきロボコン」、「KONDO カップ」

10 月「ET ロボコン」

2 月「アメフトロボットの挑戦」

### \*SAIKO advertorial project

本学のボランティア活動、各団体の功績、学内イベント等を記事とする手描きの学生新聞を発行することを目的に、初年度の平成 26 年度は 4 部の新聞を発行

④ 研究計画の進捗状況

- ・私立大学戦略的研究基盤形成支援事業（文部科学省）

研究期間 平成23年4月1日～平成28年3月31日

研究課題 機能的ナノ材料による新規な表面・バイオセンシング技術の創出

研究費 23,000,000 円(PD・RA 経費含む)

【中間評価結果】

平成25年度までの3年間の中間評価報告書の提出（文部科学省）

評価結果(6月発表) A・B評価を受け本プロジェクトの継続が承認される。

⑤ 科学研究費・その他の助成事業

- ・科学研究費補助金の獲得（日本学術振興会）

※平成26年度科学研究費獲得者

研究種目	新規 継続	所属	代表者	26年度 直接経費	26年度 間接経費
基盤研究（B）	新規	先端科学研究所	内田 正哉	8,300,000 円	2,490,000 円
基盤研究（C）	新規	心理学科	友田 貴子	2,500,000 円	750,000 円
基盤研究（C）	新規	情報社会学科	佐藤 由美	1,400,000 円	420,000 円
若手研究（B）	新規	情報社会学科	河合 穂子	1,300,000 円	390,000 円
基盤研究（C）	継続	情報社会学科	内田 法彦	1,000,000 円	300,000 円
基盤研究（C）	継続	情報システム	渡部 大志	400,000 円	120,000 円
基盤研究（C）	継続	特任教員	井上 達雄	600,000 円	180,000 円
基盤研究（C）	継続	機械工学科	趙 希禄	600,000 円	180,000 円
基盤研究（C）	継続	生命環境化学科	有谷 博文	800,000 円	240,000 円
基盤研究（C）	継続	情報システム	曹 建庭	1,400,000 円	420,000 円
基盤研究（C）	継続	生命環境化学科	長谷部 靖	1,100,000 円	330,000 円
基盤研究（C）	継続	生命環境化学科	木下 基	2,422,975 円	540,000 円
挑戦的萌芽研	継続	機械工学科	石原 敦	700,000 円	210,000 円
挑戦的萌芽研究	継続	先端科学研究所	内田 正哉	500,000 円	150,000 円
若手研究（B）	継続	情報システム	大島 浩太	900,000 円	270,000 円
若手研究（B）	継続	機械工学科	長谷 亜蘭	1,000,000 円	300,000 円
若手研究（B）	継続	機械工学科	安藤 大樹	600,000 円	180,000 円
合計			17件	25,522,975 円	7,470,000 円

- ・平成26年度私立大学研究設備整備費等補助金（文部科学省）

事業名：高精度・多目的ものづくり研究システム

購入金額：39,960,000 円

補助金額：24,656,000 円

- ・次世代自動車充電インフラ整備促進事業補助金（次世代自動車振興センター）  
事業名：急速充電器（本体）・設置工事  
総費用：4,924,204円  
補助金額：2,740,000円

⑥ 地域交流計画の実施状況

高等学校との教育連携について

相互の教育交流を通じ高校生の視野を広げ、進路に対する意識及び学習意欲を高めるとともに大学・高校の求める学生像・生徒像及び教育内容への理解を深め、かつ、大学教育、高校教育の活性化を図るために教育協定を推進している。

【平成26年度新たに以下の3校と教育連携協定を締結】

- ① 埼玉県立川口工業高等学校
- ② 埼玉県立浦和工業高等学校
- ③ 埼玉国際学園（日本語学校）

【平成25年度までの教育連携協定校 24校】

- ① 智香寺学園正智深谷高等学校
- ② 埼玉県立久喜工業高等学校
- ③ 埼玉県立深谷商業高等学校
- ④ 埼玉県立熊谷工業高等学校
- ⑤ 埼玉県立児玉白楊高等学校
- ⑥ 埼玉県立寄居城北高等学校
- ⑦ 埼玉県立深谷高等学校
- ⑧ 埼玉県立深谷第一高等学校
- ⑨ 群馬県立伊勢崎工業高等学校
- ⑩ 群馬県立前橋工業高等学校
- ⑪ 長野県坂城高等学校
- ⑫ 山梨県甲府市立甲府商科専門学校
- ⑬ 埼玉県立秩父農工科学高等学校
- ⑭ 埼玉県立妻沼高等学校
- ⑮ 群馬県立高崎工業高等学校
- ⑯ 群馬県立藤岡工業高等学校
- ⑰ 群馬県立藤岡中央高等学校
- ⑱ 株式会社立日々輝学園高等学校
- ⑲ 埼玉県立進修館高等学校
- ⑳ 群馬県立太田工業高等学校
- ㉑ 埼玉県立皆野高等学校
- ㉒ 埼玉県立川越工業高等学校
- ㉓ 埼玉県立大宮工業高等学校
- ㉔ 平方学園明和県央高等学校（群馬県）

※今後も周辺高等学校を中心に連携を推進中



公開講座・地域連携事業・高大連携

・公開講座・地域連携事業

講座名	テ ー マ	講 師	参加人数
埼玉工業大学 公開講座 (6月3日～7月5日)	・英語コミュニケーション	ウイリアムズ 教授	21人
	・災害と情報技術	内田法彦 准教授	39人
	・南極ってどんなところ	新井直樹 氏	47人
	・楽しく英語の歌を歌いましょう	レメディオス 氏	24人
	・英語で俳句・川柳を作りましょう	荒木慶和 氏	10人
	・普段とちょっと違う聞き方を体験	江原健治 氏	26人
	・日本のものづくり技術を支える技能五輪	長谷亜蘭 講 師	29人
	・ミステリーの常識を科学する	萩原時男 教 授	35人
	・浮世絵に見る3D映画の原点	井門俊治 教 授	34人
	・びっくり拡張現実感～絵本が動画に～	宮地英生 氏	34人
・楽しく生きるために脳の機能を知りくらしに生かそう	荒木慶和 氏	74人	
環境と技術体験学習 (寄居町教育委員会) (7月30日)	環境にやさしいクリーンなエネルギーの最前線	松浦宏昭 講 師	30人
夏休みこども体験教室 (8月9日)	飛ばそうペットボトルロケット教室 (深谷市教育委員会)	中島慎介 専門員 向井竜二 係 員	35人
サイエンスアカデミー (日本学術振興会) (8月3日・8月17日)	摩擦の科学×謎解き	長谷亜蘭 講 師	本学会場 9人 大宮会場 13人
科学技術と親しむ会 (8月23日)	ゴムコプターを作って謎キングを倒せ (機械学会埼玉ブロック主催)	長谷亜蘭 講 師	26人
彩の国コンソーシアム (9月8日)	儒教における「わたくし」と「おおやけ」	岡本光生 教 授	84人
SAIKOフェア (10月12日)	・研究展示 (6研究室) ・集まれ科学実験教室プロジェクト ・深谷高・寄居城北高・坂城高校学習成果発表	井門研究室 橋本研究室 関口研究室 古谷研究室 前田研究室 秋田研究室 中川研究室 内田(法)研究室 集まれ科学実験教室プロジェクト	—

講座名	テ ー マ	講 師	参加人数
総合教育センター教育展 (10月18日)	3D体験・キネクト他 (集まれセンター探検隊)	井門俊治 教授	—
もの作り技能フェスタ (10月18日・19日)	未来の3DコンピュータとICT活用体験 (埼玉県総合技術振興展)	井門俊治 教授 橋本智己 准教授 前田太陽 講師	—
埼玉県産業教育フェア (11月8日・9日)	3D体験・フライトモデルシミュレータ	井門俊治 教授	—
坂城町との連携会議 (3月23日)	事業報告及び事業計画	井門俊治 教授 吉澤浩和 教授 古谷清蔵准教授 他 関係職員	—
さかきふれあい大学 (3月28日)	ゲルマニウムラジオを作ろう	古谷清蔵 准教授	57人

・埼玉県・深谷市との連携事業

講座名	テ ー マ	講 師	参加人数
子ども大学ふかや (8月2日～10月18日)	①入学式 ②だまし絵を見てみよう ③アイスクリームができるまで (赤木乳業見学)) ④体の不思議 ⑤英吾の歌を歌おう ⑥故郷の食文化と地域の達人の技 学習成果発表 ⑦修了式	大塚聡子 教授 赤城乳業 (本庄)  東都医療大学 レメディオス 氏 深谷青年会議所他	77人
ふかや市民大学 (10月11日)	電子部品の変換と電化製品や自動車の電子化について	吉澤浩和 教授	80人
熊谷いきがい大学 (6月6日～1月6日)	身近な環境の浄化と省エネルギー化	有谷博文 准教授	70人
	災害とIT～高度情報社会における東日本大震災～	内田法彦 准教授	58人
	心理学～自分の性格を知る	友田貴子 准教授	58人
いきがい大学東松山 (2月5日・6日)	ロボットの最新動向	橋本智己 准教授	58人
	ロボットの最新動向～介護・リハビリロボット～	橋本智己 准教授	69人
	ロボットの最新動向～レスキューロボット～	橋本智己 准教授	86人

・ 高大連携校との模擬授業（協定校）

高校名・講座名	テ ー マ	講師	参加人数
群馬県立藤岡工業高校 (5月24日)	・ 大学で学ぶ情報工学 ・ ものづくり技術を知ろう	井門俊治 教授 長谷亜蘭 講師	40人
群馬県立高崎工業高校 インターンシップ事業 (7月22日～24日)	生命環境化学科との連携事業 ・ 各種染料系排水の凝集沈殿処理 ・ 貴金属触媒に替わるナノカーボン材料に関する研究開発への招待	田中潤准 教授 松浦宏昭 講師	2人
群馬県立学校化学部会研究会 (高崎工業高校) (7月25日)	高分子の合成と有機材料としてのアプリケーション	萩原時男 教授	10人
群馬県立吉井高校 (7月7日)	暗号の歴史	前田太陽 講師	40人
埼玉県立深谷高校 (7月31日)	CG教室	井門俊治 教授	30人
埼玉県立寄居城北高校 (7月28日～30日)	3次元CGと可視化技術を用いた地球と環境の学び	井門俊治 教授	20人
群馬県立吉井高校 (8月4日)	・ 現在どのようなところで暗号が使われているか ・ 数学と暗号についての関係	前田太陽 講師	19人
埼玉県立深谷商業高校 (8月4日～6日)	CG教室	井門俊治 教授	20人
長野県坂城高校文化祭 (8月31日)	・ ロボコンチャレンジプロジェクト ・ 集まれ科学実験教室プロジェクト ・ ラジコンカーデモ走行 ・ 情報システム学科研究展示	学生プロジェクト 石原 敦 教授 井門俊治 教授 吉澤浩和 教授 前田太陽 講師 志村昭則 専門員	—
平方学園明和県央高校 (9月18日)	・ 身近な環境の浄化と省エネルギー ・ 地球温暖化の現状と世界の環境問題	有谷博文 准教授	280人
日々輝学園高校 (9月25日)	・ インターネット作成と利用方法 ・ インターネットの現状と将来	前田太陽 講師 関口(久) 准教授	30人
長野県坂城中学校(大峰祭) (9月26日)	リニアモーターカーを作ろう	古谷清蔵 准教授	17人
平方学園明和県央高校 (10月21日)	人間性心理学の成立とカウンセリングの誕生	巖岩秀章 教授	40人
群馬県立吉井高校 (11月14日)	MS Power point 資料を使った インターネット公開と情報モラル	内田法彦 准教授	40人

高校名・講座名	テ ー マ	講師	参加人数
群馬県産業教育フェア (ぐんまトライワーク推進フォーラム) (11月15日)	インターンシップ体験活動報告会 (高崎工業高校との高大連携活動(生命環境化学科との連携))	内山俊一 学 長	300人
群馬県立高崎工業高校 工業化学科との連携授業 (12月10日)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ルミノールの合成</li> <li>・微小生物の観察</li> <li>・バイオクリーンルームの見学</li> <li>・質量分析装置・核磁気共鳴装置の見学</li> </ul>	浜名 浩 准教授 秋田祐介 講 師 熊澤 隆 教 授 石川正英 教 授 岩崎政和 教 授	40人
日々輝学園高校 (12月18日)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ゲームプログラミング体験(初級)</li> <li>・ゲームプログラミング体験(中級)</li> <li>・レゴロボットとプログラミング</li> </ul>	関口(久) 准教授 前田太陽 講 師 井門俊治 教 授	22人
埼玉県立熊谷工業高校 (1月20日～23日)	インターンシップ	古谷清蔵 准教授 井上 聡 准教授 企画広報課 管財課 情報技術課	2人
群馬県立高崎工業高校 (1月27日)	平成26年度学習成果発表会	井門俊治 教 授 宮川芳伸 課 長	全校生徒
群馬県立伊勢崎工業高校 (1月27日)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教材ロボットの感動</li> <li>・身振り手振りでコンピュータと会話しよう</li> </ul>	石原 敦 教 授 坂本政祐 准教授	40人
群馬県立高崎工業高校 (1月30日)	ロボットのプログラミング制御	橋本智巳 准教授	40人
群馬県立藤岡工業高校 (1月28日)	平成26年度 学習成果発表会	井門俊治 教 授 宮川芳伸 課 長	全校生徒
群馬県立前橋工業高校 (2月10日)	平成26年度 学習成果発表会	井門俊治 教 授 宮川芳伸 課 長	全校生徒
平方学園明和県央高校 (3月5日)	情報とコンピュータ 身振りでコンピュータと会話しよう	坂本政祐 准教授	79人
埼玉県立熊谷工業高校 (3月13日)	平成26年度インターンシップ報告会 (熊谷市民文化センター)	井門俊治 教 授 古谷清蔵 准教授	全校生徒
埼玉県立妻沼高校 (3月18日)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・なぜ学ぶのか</li> <li>・ものづくり技術と技能オリンピック」</li> <li>・紙コップで発電機を作ろう</li> <li>・見えない空気見てみよう</li> <li>・情報技術を学びたいなら</li> <li>・錯視から考える脳の働き</li> </ul>	井門俊治 教 授 長谷重欄 講 師 古谷清蔵 准教授 浜名 浩 准教授 前田太陽 講 師 大塚聡子 准教授	154人

・臨床心理センター

セミナー名	テーマ	担当	参加人数
土曜セミナー	学習と記憶のしくみ (6月21日)	河原哲雄 教授	104人
	ウィーンの散歩道 (フロイトがいた街) (7月19日)	友田貴子 准教授	80人
	瞑想技法による心の整理 (9月20日)	巖岩秀章 教授	64人
	青年心理臨床学入門 (箱庭や夢から見た青年) (10月18日)	藤巻るり 講師	61人
	色の心理学の基礎知識 (11月15日)	大塚聡子 教授	66人
	子どもと言葉—言葉の発生とその土台となるもの (12月6日)	藤巻るり 講師	58人
ワークショップ	心理学実験を体験してみよう (9月6日)	曾我重司 教授	6人
	箱庭療法の体験 (5月29日～9月25日:全5回)	三浦和夫 教授	33人
幼児グループ	子育て支援 年31回	友田貴子 准教授 藤巻るり 講師	延466人

⑦ 主な施設設備計画の実施状況

2号館3、4階講義室映像音響システム整備事業	16,450千円 (文部科学省:私立学校施設整備費)
2・6号館節水型洋式トイレ改修整備事業	15,120千円 (文部科学省:私立学校施設整備費)
高校2・4号館耐震改修設計工事	655,884千円 (私立高等学校施設整備費)

⑧ 就職事業状況

地域交流 (長野県及び坂城町等)

- (1) 坂城町及び財団法人さかきテクノセンターとの連携協定に係る事業に基づき、就職活動を控えた3年生を対象に2日間企業見学を実施し、工学部を中心に多くの学生が参加した。参加人数9月8日(20名)・9月9日(20名)
- (2) 6月12日開催された学内合同企業説明会に群馬中小企業家同友会との就職支援に関する協定及び坂城町連携協定に基づき、群馬県から25社、坂城町から7社が参加した。
- (3) 学内合同企業説明会を2月に開催し、坂城町企業3社が参加した。また、茅野・諏訪からも2社が参加した。
- (4) さかきテクノセンター事務局による大学訪問により情報交換会を行った。

#### 学生就職支援講座・ガイダンス

- (1) 公務員対策講座は8月～9月に筆記試験対策講座を集中的に開講し、2月～3月上旬直前対策講座を設けた。
- (2) 1年生入学後に就職ガイダンスを実施すると共に、自己発見レポートを作成し、学生生活の充実を図り3年後の就職課活動を見据えたフォローガイダンスを実施した。  
2年生においては数回の就職ガイダンスを実施し、就職準備講座を実施した。  
3年生では就職ガイダンス、インターンシップガイダンスなど就職活動に必要な対策講座や研修を実施した。  
また、インターンシップに参加した学生による報告会を実施した。
- (3) 東京経営者協会の「企業人による出張講義」を開催し、昨年引き続きNTTタウンページの人事担当者が講義を開催した。
- (4) 12月に大手企業を集めた業界研究セミナーを実施した。
- (5) 3年生対象の就職面接合宿研修を国立女性教育会館において11月・2月開催し、97名の学生が参加した。  
参加できなかった学生のために、7日間の面接突破研修を設けていずれかの日程で参加を促し、全講座実施した結果、165名の学生が受講した。
- (6) 次期就職活動を開催し3年生・大学院生を対象とした「学内業界研究セミナー」を6日間開催し、延べ1,055名が参加した。

#### 関東地区大学理工系就職研究会

- (1) 年間4回の研究会を開催し、各大学の取り組みや就職に関する情報交換を行った。
- (2) 6月に東京電機大学において研究会を行い、その後、田島ルーフィング(株)の工場見学会と情報交換会を行った。

#### 各県就職情報交換会

- (1) 栃木県・茨城県・群馬県・長野県等、各県主催の就職情報交換会に出席しUターン就職希望者への情報とした。
- (2) 埼玉中小企業家同友会主催の意見交換会を行った。
- (3) 埼玉県情報サービス産業協会主催の意見交換会を行った。

#### 合同就職説明会及び個別就職説明会

- (1) 未内定者を対象に学内で5月・6月・7月・9月・10月・11月・12月・2月・3月に企業説明会を行うと共に、学内での企業による個別説明会と一次選考を随時実施した。企業に個別説明会及び一次選考会社数は334社
- (2) 8月に埼玉県内16大学が主催し埼玉県中小企業家同友会・埼玉県情報サービス産業協会・りそな銀行の関係3団体の協力を得て、16大学合同企業説明会をさいたま市のホテルブリランテ武蔵野で開催し、54社の企業と420名を超える16大学の学生が集まった。本学から21名の学生が出席した。

#### その他の事業

- (1) 埼玉産業労働部の補助事業として、3年生を対象に県内企業（曙ブレーキ工業㈱・㈱アドバン）の工場見学会を行った。  
これに合わせ群馬県内企業（AGF 関東㈱・坂本工業㈱）各 30 名学生が参加した。
- (2) 7月に4年生・3年生の保護者向け就職ガイダンスを開催し、138名の保護者が参加し、4年生の保護者と個別面談を実施した。また、9月には1年生～3年生の保護者向けガイダンスを開催し、278名の保護者が参加した。
- (3) 埼玉労働局の「学生情報」提供と大学ジョブサポーター常駐により、未内定者の個別対応を実施した。
- (4) 年度末には未内定者の保護者宛に学内での合同企業説明会の案内やハローワーク熊谷への就職登録を行った。
- (5) 学内において、群馬県職業訓練センター（ポリテクセンター）の説明会を開催した。
- (6) 昨年から週3日間キャリアカウンセラーによるカウンセリングと研究室訪問を実施した。
- (7) 学生会終了後に、ハローワークジョブサポーターによる講演会を実施した。
- (8) 諏訪工業メッセにおいて地元企業との情報交換会をおこなった。

## 高校部門

### ① 平成 26 年度の卒業生進路実績

26 年度の進路実績は、前年度に比べて大きく改善した。進学実績は、生徒募集に直結する要素のひとつであり、26 年度の方針にも、具体的な数字を目標として掲げた。まず卒業生数は、344 名で、25 年度の 358 名よりも若干減った。その中で国公立大学への進学者数は、31 名と前年の 13 名から大幅に増え、目標としていた 30 名を超えた。数の上では過去最高だった 23 年度の 32 名という記録に迫った。ただし進学先の難易度で言えば、少々見劣りがした。

現役で 4 年制大学に進学した生徒の割合は、昨年度の 72.6%から、79.1%に増え、24 年度の 79.5%に迫るところまで回復した。目標としていた 80%にも、あと一步の水準だった。

私大の合格者数は、国公立大学と違って延べ数となるが、439 名だった。前年度の 391 名よりは増えたが、24 年度の 568 名には及ばなかった。特に難関私大の合格者数は、満足できる状況ではなかった。これは一般受験で複数校を受験した生徒が少なく、推薦入試や AO での入学の率が高かったことから、背景にあるのは、現役合格を第一に考える安定志向といえる。

就職者は 22 名で、前年の 30 名よりは減ったが、23 年度の 11 名、24 年度の 10 名と比べると高い水準にあり、家計の状況も少なからず影響していると推測できる。

埼玉工業大学に進学した生徒は 46 名で、2 年連続して目標の 45 名を超えることができた。

### ② 平成 26 年度入学者実績

26 年度（27 年度生）の入学者数は 326 名と、募集定員の 360 名を大きく下回り、昨年に引き続き未達となった。

最大の原因は、併願受験をしている公立高校の倍率の低さから、競合の度合いが増し、経済的理由も含め公立高校へ流れたものと推測される。もともと公立志向が強い地域だけに、併願している公立高校の競争率が下がると、入学する生徒の減少に直結するのも否めない。

もうひとつの原因は、25 年度の進学実績が低調であったことだと考えられる。特別進学系が 57 名で、前年度対比 27 名減、前々年度対比では 48 名減と、大幅に減少している。進学実績は高校選びの重要なポイントとなっていることを意味している。また、学力特待の基準の見直しも少なからず影響したと考えられる。

総合進学系は 169 名と、前年度より 19 名増、前々年度比では 37 名減だった。スポーツ系は 100 名で前年度対比 14 名減、前々年度対比 13 名増だった。25 年度、26 年度の募集定員未達は、特別進学系の不振が原因となっている。理由としては、前段にも述べたとおりである。また、近隣私学との競合も影響している。

スポーツ系は、各クラブが面倒を見られる人数に制約があるため、受け入れできかねない生徒がいた。総合進学系に在籍する、女子強化クラブの生徒も含めると、広い



意味での「スポーツ系」の入学生は 150 名近くなる。各クラブの県大会や関東大会、そして全国大会での活躍が効果を挙げているものと考えられる。

### ③ 転入学者、転退学者数

24 年度の転入学者数は 2 名。うち 1 名は本校に馴染めず、結果的に半年後に転出した。退学者は 4 名で、1 名は不幸にも病気死亡によるもので、他 3 名は自主退学であった。その他の転出者は 17 名で、大半が通信制または単位制高校への転出であった。残念なことに 2 名は校則違反等の処分に関連するものだった。学年別では、3 学年が 3 名、2 学年が 8 名、1 学年が 6 名だった。転退学者は、例年 1 学年が最も多いが、今年は 2 学年が最多となった。2 学年の在籍者数が 1 学年よりも多いのが理由の一つだと思う。26 年度の 1 学年が比較的落ち着いた学年であったことも理由に挙げられる。軽微なものも含め、校則違反等で処分を受けた生徒数が、26 年度は前年度の 36 件から 13 件と大幅に減少したのも、それを裏付ける数字です。

### ④ 耐震補強工事

25 年度に完成した 1 号館に続き、26 年度は 2 号館および視聴覚棟の耐震補強およびリニューアル工事を実施した。1 号館同様、耐震補強工事に加えて、老朽化した設備の更新や不具合箇所の修理を行う、総合的なリニューアル工事をした。2 号館には食堂やパン売り場が含まれており、これらの施設も含めて新築同様の仕上がりになった。

平成 25 年度から 27 年度まで、耐震補強に対する文部科学省および県からの補助金が上乗せされる。また補強に付随する工事も補助の対象になる。この機会に校舎の耐震補強およびリニューアル工事を終えたいと考えている。27 年度は残る 3 号館および体育館の工事を予定。

財務状況が厳しい中で、耐震補強およびリニューアル工事をするようになるが、27 年度末には、生徒たちが安全で快適な学校生活を送れる環境が整う。

### ⑤ 平成 26 年度の事業計画に記載した事項

#### (1) 学力向上

一定レベルの学力に達していない生徒向けに、従来から行われている「基礎学力講習」に加え、1 学年を中心に、試験前の放課後に強制的に自学習をさせる「勉強会」を実施した。その対象者以外にも自主的に希望者も参加し、定期試験の結果から、効果が確認できた。

#### (2) 人格の形成

新たに始めた行事はありませんが、1 学年の飯綱念仏道場での合宿に始まり、宗教の授業や茶道、華道の授業、3 学年の増上寺研修、そして、精霊会、成道会、法然忌などの全校行事を通じて、建学の精神である法然上人のお教え、生き方を学ば

せ、身に付けるべく実施した。

### (3) 社会人としての資質の醸成

学校行事やクラブ活動を通じて、社会性を身に付けさせるように指導した。今年度からは、従来1学年のスポーツ系生徒だけを対象に行っていた、スキー、スノーボード研修を総合進学系にも広げ、ウィンターキャンプと名前を変えた。2学年では修学旅行があり、3学年は進路に向かうが、1学年では目標になる行事がなかった。実施前は、運動の嫌いな生徒はどうするか、怪我が多発するのではないかと懸念する声もあったが、生徒たちは楽しんで参加した。また初日の夜は合同のホームルームを実施し、総合進学系、スポーツ系の枠を超えた交流ができ、友情の輪が大きく広がった。

### ⑤ 財務基盤の改善・強化

高校の財務状況は極めて厳しく、収支改善への取り組みは常に心がけている。中期的に取り組まなくてはならないのが、クラスサイズの適正化と、特待生に支給する奨学金の抑制、そして通学バスの費用の圧縮です。

26年度は学力特待の支出額は予算を下回ったが、これは特待生の入学者数が大きく減少したことによるもので、積極的に謳えるものではありません。特別進学系の生徒が減ると進学実績への影響や、クラス人数の非効率化、補助金の減少など、減収要因も増える。総合進学系とスポーツ系を合わせた6クラスの、1クラス当たり平均人数が34名弱なのに対して、特別進学系の3クラスでは1クラス当たり19名で、全体の平均を押し下げている。25年度から学力特待の基準を見直したが、競合する私立他校と比較をしながらの調整が必要であり、加減の難しさを実感している。

通学バスについては、平成29年度から路線の見直しと有償化する可能性がある旨を、募集パンフレットに載せた。中途半端な有償化では、有償化に伴うコスト増で、生徒から徴収する金額の大半が消えてしまう事になり兼ねません。収支改善には何が最適かを、慎重に検討する必要があります。

### 3. 財務の概況

#### (1) 概況

平成26年度の収支状況は、収入の柱である学生生徒等納付金収入が安定的に増加し、且つ、施設設備関係の補助金増加が寄与し帰属収入を大幅に押し上げる結果となった。資金収支面においては、高校の耐震改修工事による資金流出が先行し、その工事に伴う補助金が殆ど未収であったため、繰越支払資金の大幅減少を余儀なくされた決算であった。

大学の学生募集については、引き続き好調裡に推移しており、入学定員以上をコンスタントに確保しているが、二学部間のバラツキは依然として解消していないところから、平成27年度生より一部入学定員の見直しを実施、加えて平成28年度以降は人間社会学部2学科において専攻制を打ち出し、より教育分野を明確にし募集を行うこととした。

また、高校の生徒募集については、平成26年度、平成27年度と低調に推移しており、その要因分析と今後の対策が急務となって来ている。

消費収入は一部の科目を除きほぼ予算以上の収入となり、帰属収入合計では、下記の経年推移の通り毎年右肩上がりの増加を示した。平成26年度においても施設設備に伴う補助金の大幅増加が寄与し、金額ベースで、前年度対比119百万円増加し4,986百万円の実績となりました。基本金は多額な設備投資により628百万円を組入れたことにより、消費収入は4,358百万円で前年対比49百万円の増加にとどまることとなった。

一方、消費支出について、人件費は退職金の影響で金額が大きく増減するが、ほぼ横ばいの推移で、教職員の定年に伴う補充も順調に行われている。また、教育研究経費、管理経費は高止まりの状況にあるが、猛暑、厳寒に伴う冷暖房需要からの水道光熱費高騰、老朽化した設備に対応する修繕費の増加など、避けて通れない事情からやむを得ないものである。

帰属収支差額は大幅に好転したものの、消費収支差額は基本金組入額が大きく支出超過の解消までには至らず、繰越消費支出超過額も多大となっている。

#### (2) 連続消費収支の状況

(単位 百万円)

科 目	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
帰属収入合計 (A)	4,232	4,320	4,351	4,867	4,986
(内 学生生徒等納付金)	(3,123)	(3,346)	(3,359)	(3,520)	(3,531)
(内 補助金)	(811)	(660)	(761)	(978)	(1,046)
基本金組入額	278	267	180	558	628
消費収入合計 (B)	3,954	4,053	4,171	4,309	4,358
消費支出合計 (C)	4,259	4,198	4,198	4,515	4,471
(内 人件費)	(2,503)	(2,502)	(2,417)	(2,655)	(2,620)
(内 教育研究経費)	(1,276)	(1,264)	(1,322)	(1,366)	(1,415)
消費収支差額 (B)-(C)	△305	△145	△27	△206	△113
帰属収支差額 (A)-(C)	△27	122	153	352	515

(3) 資産負債の状況

今年度の資産負債の状況は、総資産が261百万円増加し総負債が254百万円減少したことにより自己資本の増強に寄与しました。内容的には大口の設備投資と借入金返済が大きな要因です。固定資産は、有形固定資産で投資額891百万円に対し、減価償却及び除却で528百万円ありましたので364百万円の増加、その他の固定資産も105百万円増加し、固定資産合計は15,659百万円でした。流動資産のうち現金預金は295百万円減少しており、補助金、退職財団等の交付金など未収入金の増加と合わせ流動資産全体で209百万円減少となった。

負債勘定は、固定負債で長期借入金の返済中心に212百万円の減少、流動負債は未払金および前受金の減少など42百万円減少し、負債勘定全体では245百万円減少し3,052百万円の残高でした。

総資産から総負債を引いた純資産は15,435百万円となったが、消費収支差額は支出超過の累積により、9,347百万円が翌年度繰越支出超過となっています。

(4) 連続貸借対照表の状況

(単位 百万円)

科 目	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
固 定 資 産	15,357	15,119	14,963	15,189	15,659
流 動 資 産	2,546	2,685	3,006	3,037	2,829
資産の部合計	17,903	17,803	17,969	18,226	18,488
固 定 負 債	2,471	2,256	2,117	1,930	1,718
流 動 負 債	1,140	1,132	1,283	1,376	1,334
負債の部合計	3,611	3,388	3,400	3,306	3,052
基本金の部合計	23,573	23,841	23,995	24,552	24,782
消費収支差額の部合計	△ 9,281	△ 9,426	△ 9,426	△ 9,632	△ 9,347
負債基本金消費収支差額の部合計	17,903	17,803	17,969	18,226	18,488